

研究可能テーマ

研究可能テーマ	研究指導者	受け入れ可能院生数
<p>(1) 国際保健医療協力に関する研究</p> <p>2008年のG8北海道・洞爺湖サミットにおいて今後の国際保健の主要課題として「母子保健」「感染症」「保健システム」が取り上げられました。これを受けて国立国際医療研究センター国際医療協力部と協力して「母子保健分野における研修を中核とした援助アプローチの多様性に関する研究」を行っています。JICAの母子保健プロジェクトのフィールドを中心に研究が進められており、研究成果は途上国における母子保健対策の促進強化に貢献することが期待されています。</p>	遠藤教授	2
<p>(2) マラリア原虫の薬剤耐性に関する研究</p> <p>クロロキンをはじめとするマラリア治療薬に対する耐性原虫の蔓延は、マラリア制圧の大きな障害となっています。国際環境・熱帯医学教室では、対策を見据えた基礎研究を行っています。現在、耐性原虫がいつ頃出現したのか（過去推定）および今後どのように広がっていくのか（未来予測）の解明を目標に掲げています。この目的のもと、東南アジア、太平洋地域、アフリカの流行地における定期的な現地調査を行い、得られた原虫株の薬剤耐性関連遺伝子や中立座位の多型を分析しています。これらの結果は、集団遺伝学および分子進化学的手法を用いて解析し、原虫集団の多様性比較や集団の履歴推定を行っています。</p>	美田講師	2
<p>(3) 途上国におけるマラリア診断治療行動に関する研究</p> <p>マラリアには有効なワクチンがなく適正な早期診断治療が対策の柱となっています。しかし、途上国の医療現場やコミュニティでは、政府が推奨しているマラリア診断治療政策が実現されていない場合が多く見られます。この現象を、医療従事者やコミュニティ住民の行動レベルから分析して問題の原因を明らかにすることを目的としています。現在、マダガスカルとパプアニューギニアで継続的に調査を行っており、地域性を考慮したマラリア対策プログラムを提言することを目指しています。</p>	遠藤教授 塚原准講師	2